

郷音

No. 91

〒590-0959

日本キリスト教団 堺川尻教会

堺市堺区大町西三丁目一十三

☎072-2332-3531

「悔い改める一人の罪人については…大きな喜びが天にある。」

(ルカによる福音書一五章七節)

コロナ禍が続いています。この感染症によって人々の健康が害され続け、命が失われ続けています。経済活動は停滞し、生活に困窮する人が増え続けています。さらにこの困難の中で人間のエゴイズムがむき出しになり、差別や争いが起こり続けています。私たちは出口の見えないトンネルの中にいるような感覚にもなるのではないのでしょうか。

教会は、今この時代に向けて何を語るべきでしょうか。神に心を向けよ、ということでしょうか。この困難にあつて、神を畏れよ、あるいは、自己本位、自分中心をやめよ、ということでしょうか。

そのようなことも語るべきでしょう。しかし今日の御言葉は、それが第一の問題だとは言っていない

ません。冒頭の聖句は主イエスが語られたたとえの結びですが、このたとえで主は、最も大事なことは、神が私たち人間に心に向けておられること、神の方が私たち一人一人に関心を注いでおられることだと言われているのです。そのたとえです。「あなたがたの

天の喜び

塚本一正牧師

ルカによる福音書一五章一〜七節



い九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」

このたとえで主が私たちにさせてくださったことは、言わば天の覗き見です。そして私たちが見るのは、天で私たちに関心が注がれているということです。この地上で生きる私たちのために、天で神が心を煩わせてくださっているのです。しかも皆ひとまとめにしてというのではなく、私たち一人一人に心が向けられています。

つまり天では、思いがけず、この「わたし」のことが話題になっているのです。この「わたし」を神が深くお心にかけてくださっています。「あなたを見失ったら、見つけるまで探し回る。見つけたら、天をあげて喜ぶ」と言ってください。

教会とは何でしょうか。それは、この「わたし」の集まりです。つまり、神に関心を注いでいただきたい人の集まりです。教会とは、自

分で神を見つけた人ではなく、神によって自分を捜していただき、見出していただき、その救いを天をあげて喜んでいただいた人の集まりなのです。今教会が世の人々に語るべきことはこのことではないでしょうか。すなわち、「天の神があなたに関心を注いでおられる」ということです。「あなたは自分が神に関心を注がれている存在であることを知ってほしい」ということです。

コロナ禍の中で、人々の心は不安や心配に揺れ動いています。私たちの心だつて様々に揺れ動きまします。しかし私たち信仰者は、そのように揺れ動く自分自身の心に振り回されないで済むのです。それは私たちが、天の喜びの揺るぎ無きことを知っているからです。天が、神が、この「わたし」を喜んでくださっていることを知っているからです。私たちがの救いこそが、天の、神の、喜びであることを知らされているからです。その神が、私たちをお見捨てになるはずがないと確信しているのです。この福音を教会はいつの時代も語りま